

# ἰλάσκομαι

## ヒラスコマイ

### 知っておきたいキリスト教のことば (4)

## 贖い(主) あがない(ぬし)

いわゆる「キリスト教用語」の中で、この「贖い」という言葉は、非常にわかりにくいと感じるのは、わたしだけでしょうか。普段の生活の中で、「昨日、例の件を贖いまして・・・」という会話をしている人を、わたしは聞いたことがありません。しかし、教会の中ではたびたび出てくる言葉なのですね。

さてこの言葉ですが、一般的な意味を辞書で調べてみますと、罪の償いをする、たとえば「死をもって罪の贖いをする」というように使うそうです。また、金品を代償として、罪を免れるという意味でも使います。

では、聖書では「贖い」をどのように用いているのでしょうか。旧約聖書では、人手に渡った近親者の財産や土地を、賠償金を払って買い戻すことや、身代金を払って奴隷を自由にするという意味で使われています。さらに、罪の償いのために犠牲など様々なささげ物をささげることにも、「贖い」という言葉が使われます。辞書に載っている一般的な意味と、ある程度近いものがあると思います。

しかし、新約聖書になると、この言葉は神学的な意味を持って用いられます。わたしたちは生まれながらにして、罪や死、悪といったものに束縛されています。そこからの解放をもたらすキリストの行為を「贖い」と呼ぶのです。すなわち、イエス様の十字架の血をもって、神さまは人間の罪を赦し、そこに和解がもたらされた。そのことを「贖い」と呼び、十字架につけられたイエス様を「贖い主」と呼ぶのです。

さて、この「贖い」という言葉は、ギリシア語「リュトロン」とその派生語の訳語ですが、新共同訳聖書では他の訳を選択している箇所もあります。「身代金」(マルコ 10:45)、「解放」(ルカ 1:68、21:28)、「救い」(ルカ 2:38)などがそうです。この訳語をみても、イエス様がわたしたちのためにどのようなことをなさったのか、そしてわたしたちをどうしようとされているのかが、わかるような気がします。

次回は「崇める」です。お楽しみに。



「磔刑図」

アンドレア・マンテーニャ (1431-1506)

この方はすべての人の贖いとして御自身を献げられました。これは定められた時になされた証しです。

(テモテの手紙一 2章6節)

